第 114 回世銀・IMF 合同開発委員会　議長声明（仮訳）
（2026 年 10 月 17 日　於：バンコク（タイ））

世界経済は、予想以上に、相次ぐ一連のショックに耐えているが、強靭性が今後も継続すると当然視すべきではない。戦争及び紛争は、甚大な人道的犠牲をもたらし続けるとともに、経済的にも多大なコストと重大な負のスピルオーバーを引き起こし、最も貧しく脆弱な人々に最も深刻な影響を与えている。サプライチェーンの混乱は、不確実性と物価への圧力を一段と高めている。大規模な構造変化も進行している。機会とリスクの双方をもたらす、このより複雑な環境において、我々の優先事項は、裾野の広い民間主導の成長を可能とし、信頼に足る政策と国際協調を通じて強靭性を強化しつつ、マクロ経済及び金融の安定を促進することに変わりはない。持続可能な成長及び長期的安定のためには、戦争と紛争を終結させ、世界における恒久的な平和を確保することが依然として不可欠である。

開発委員会は、10 月 15 日にタイ・バンコクで開催された。

世界経済は、重大なショックに対して予想以上の強靭性を維持しているが、依然として顕著な課題と不確実性が存在している。これらの課題は、引き続き途上国及び最も脆弱な人々に不均衡な影響を及ぼしている。我々は、世界銀行グループ（WBG）及び国際通貨基金（IMF）に対し、それぞれのマンデートに沿って、加盟国及び政策立案者と引き続き協力し、経済成長と生産性の向上、貧困削減、雇用創出の促進、マクロ金融リスクの評価、及び追加的なショックに対する強靭性の強化を支援することを求める。これらの取組は、効果的な国内資金動員を含む、マクロ経済の安定及び財政の持続可能性によって支えられるべきである。

民間セクター及び民間資金動員は、経済成長と雇用創出において重要な役割を果たしており、政府開発援助及び譲許的資金を補完しながら、開発効果の拡大に貢献している。我々は、WBG の資金を活用した総融資額が 2026 年度に 1,240 億ドルに達し、民間資金動員額も 1,120 億ドルへ増加したことに留意する。これらは、居住可能な地球における貧困の撲滅と繁栄の共有の促進というWBGのミッションを支えるものである。政策の優先分

野は、物理的・人的・自然・デジタル資本への投資を行うとともに、民間企業の成長を可能にするビジネス環境を整備することに置かれるべきである。我々は、より多くの、より良い雇用を創出し、全ての人々に対する障壁を取り除く予見可能なエコシステムの構築に向け、公的・民間セクターと協働するWBGの取組を認識する。これには、規制及び制度改革の実施並びに制度能力、透明性、公平性及び法の支配の強化を通じて、質の高いインフラ、データ、金融、運転資本、流動性及び企業・農業事業体、とりわけ女性所有企業を含む中小零細企業（MSMEs）向けの起業支援拠点の強化が含まれる。我々は、リスク軽減手段及びその他の資金動員手法の強化、投資適格な案件を育成する環境整備、並びにグローバル新興国市場リスクデータベースを通じた透明性向上により、民間投資を促進するWBGの取組を歓迎する。

我々は、WBG が支援対象国に対し重要な資金支援及び政策助言を提供し、社会的セーフティネット・プログラムを支援し、食料・栄養安全保障を強化し、危機への備え・対応のためのツールキットを含め、最も脆弱な人々を保護していることを認識する。我々は、危機の予防、備え及び対応に関する継続的な取組の重要性を強調する。また、我々は、中東情勢やエボラ出血熱の流行を含む最近の危機に対するWBGの迅速な対応、並びに自然災害及び紛争後の被害・ニーズ評価を認識する。我々は、将来のパンデミック発生時の迅速な資金供与の枠組みに関して、関係パートナーと連携しつつ、影響を受けた国及びリスクに直面する国との関与を継続することを求める。

我々は、脆弱性・紛争及び暴力（FCV）下にある国々への関与に関する WBG の新たな戦略を歓迎し、脆弱性及び紛争の根本要因への対応に重点を置くことを奨励する。また、我々は小国戦略を歓迎し、小島嶼国を含む小国に対して引き続き各国の事情に応じた支援を提供することを求める。我々は、保健サービス、アグリコネクト、ウォーターフォワード、デジタル及び AI、金属・鉱物、社会的保護並びに教育・スキルに関するターゲットを定めた実施計画及びジェンダー戦略の継続的な実施に留意する。2026

年度までに、WBG のプロジェクトは社会的セーフティネット・プログラムを通じて 2 億 3,400 万人に裨益し、5 億 5,100 万人に保健・栄養・人口分野のサービスを提供し、生産、付加価値向上及び市場連結を支援する取組を通じて 1,900 万人の農業従事者に裨益した。我々は、5,900 万人の電力アクセス向上につながったミッション 300 に関する WBG の取組継続を奨励する。また、我々は気候変動行動計画の延長に留意する。我々は、WBG に対し、MDBs や国際機関を含む官民パートナーとの協力を継続し、開発の促進、ショックに対する強靱性の強化及び脆弱性の根本要因への対処を進めることを求める。我々は、WBG による調達改革プログラムの実施に留意するとともに、質を重視する調達アプローチを実施するための各国における能力構築の重要性を強調する。また、我々は、債務持続可能性分析を強化し早期警戒ツールとして機能する、改訂後の IMF・世銀による低所得国向け債務持続可能性枠組（DSF）を認識する。

我々は、新たな国別関与モデルと、各国間の相互学習を促進し、エビデンスと経験を支援対象国が利用可能なものとするナレッジバンクとしての WBG 強化に向けた進展を歓迎する。これにより、各国はそれぞれの状況に応じた横展開可能な解決策を実施することが可能となる。我々は、各国のオーナーシップ、国家開発優先課題との整合性、及び政府全体による協調的なアプローチの重要性を強調する。我々は、WBG が知識を融資及び事業実施とより緊密に結び付け、特に若者、女児、女性、疎外された人々及び脆弱な人々に対する成果を加速させることを奨励する。

我々は、業務の効率性及び有効性の向上と、質を確保しつつ開発成果をより迅速に実現するための実施加速に対する WBG の注力を歓迎する。我々は、長期的な財務持続可能性を維持しつつ、革新的な金融手法やパートナーシップを通じて自己資本をより効率的に活用する取組の継続を奨励する。また、我々は、WBG が支援対象国及び開発パートナーと協力し、公共投資プロジェクトの準備態勢並びに各国の能力及び制度を強化するとともに、WBG 自身の制度や手続も各国の状況に応じたものとすることで、WBG 支援案件がより早く具体的な成果につながるよう取り組むことを奨励する。

我々は、世界銀行アカウンタビリティ・メカニズムと IFC／MIGA コンプライアンス・アドバイザー・オンブズマンを統合し、より高い有効性と一体性を実現する単一のWBG独立アカウンタビリティ・メカニズムを創設するとの決定を歓迎する。我々は、強固で信頼性が高く効果的な説明責任枠組を維持することの重要性を強調する。

我々は、所得を向上させ、技能を育成し、貧困からの脱却につながる雇用を創出する必要性を強調する。我々は、インフラとエネルギー、アグリビジネス、保健、観光並びに金属・鉱物を含む付加価値型製造業分野の雇用創出の可能性に留意し、WBG がこれらの分野において支援対象国中心の統合的な資金支援を提供することを奨励する。我々は、特に IFC 及び MIGA に対し、保証、出資、ファースト・ロス及びセカンド・ロス手法、現地通貨・資本市場に係る金融手法及び組成分配型（Originate-to-Distribute）アプローチを更に拡充・展開することを奨励する。これは、リスクを軽減し、特に IDA 国及び FCV の影響を受ける国における持続的な雇用創出のため、民間資本を呼び込む上で必要である。この文脈において、我々は、IFC が 2018 年増資パッケージにおけるコミットメントを達成し、IFC2030 戦略を最終化することに期待する。我々は、WBG が中所得国にも支援対象国中心の解決策を展開することを求めるとともに、中所得国戦略に期待する。我々は、雇用成果を包括的に把握するため、スコアカードに「より多くの、より高収入の雇用」指標が追加されたことを歓迎する。

我々は、WBG が支援対象国と協力し、デジタルインフラ並びに AI を安全かつ効果的に活用するための強固な制度及び枠組を構築することを求める。AI は、経済を変革し、生産性を向上させ、経済成長を促進する可能性を有するが、技術変化の便益は、適切な政策、インフラ・デジタル・プラットフォームへのアクセス及び全ての人々のための雇用と機会を創出する技能の支援により、広く共有されなければならない。

我々は、最大の譲許的資金供与機関である国際開発協会（IDA）への支持を改めて表明するとともに、IDA21 中間レビュー及び IDA22 増資の成功に期待する。

我々は、2025 年株式配分見直しに関する総務向け報告書及び今後の取組に関する提言に留意する。

開発委員会は、年次総会の開催にあたり、タイ政府及びタイ国民に謝意を表明する。また、過去 2 年間にわたり開発委員会議長として貴重な指導力を発揮したスウェーデンのエリザベス・スヴァントソン財務大臣に感謝する。我々は、その後任として開発委員会議長に就任する日本の片山さつき財務大臣を歓迎する。

次の開発委員会は、ワシントン D.C.において、2027 年 4 月に開催する。